

## IGF2023に向けた国内IGF活動活発化チーム 第37回会合 発言録

2023年8月7日

【加藤】 それじゃあ、まだ参加される方もあるかとは思いますが、第37回目の活発化チームの会合を始めたいと思います。お集まりありがとうございます。

今日は、お時間の御都合もあるということで、まず、スケジュールに沿ってですけれども、政府関係、IGFの主催者であります総務省の岡崎様、いらっしゃいますでしょうか。岡崎様からアップデート等いただければと思います。

【岡崎】 岡崎でございます。よろしくお願いいたします。

【加藤】 よろしくお願ひします。

【岡崎】 聞こえておりますでしょうか。

【加藤】 聞こえております。

【岡崎】 ありがとうございます。前回からここでお話しできるようなアップデートはあまり多くはないんですけれども、1つ、御質問いただいておりますレセプション関係の日程なんですけれども、今年はDay 0の8日が全体の大規模なレセプションで、ミュージックナイトをDay 1の夜にやるという、分ける方向で少し今検討を進めているところです。なので、Day 1かDay 0かというお問合せをよくいただいております、どちらかで調整していますと申し上げていたんですけれども、いろいろ出演者様も含めて都合がありまして、これを2つに分けて実施するという方向で進めさせていただいております。

あと、セッション関係は、あまり進捗がなく、ばらばらとIGFのホームページのほうでワークショップ以外にも固まったものが公表されていて、オープンフォーラムとかそういうところについても、個別に自分が出したやつが選ばれた、選ばれなかったという報告をいただいておりますので、公表されていない部分もほぼ出された方には結果の御報告がUNから行っているものと思います。その影響もあって、登壇の御依頼、調整など具体的などころも進んでいるかとは思っていますので、お声かけをいただいた方はぜひ積極的に御参加をいただきたいと思っております。

このぐらいが大きなアップデートかなと思うんですけれども、ほかに御質問等ございましたら、いただけましたら、お答えできる範囲でお答えしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

【加藤】 ありがとうございます。岡崎様は、今日は時間の制約があって初めのほうだけ御参加いただくということですので、ぜひこの機会に御質問とかございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。河内さん、お願いします。

【河内】 MAGメンバーの河内ですが、MAGのほかのメンバーがメーリングリストで、今、もはや自分が提案したりとかしているセッションが行われることになって、日本に来ようと思っている人が、ビザを取るのにインビテーションレターをどうやったら取れるんだ、みたいなことを聞かれているんだけど、誰か知っているかとかというのがメーリングリストで流れているんですが、ちょっと前に一応外務省のページに飛んで、そこにインビテーションレターをこうすればもらえるみたいを書いてあると思いますと、どなたかが、山崎さんだったかな、投稿されていると思うんですけども、ちゃんとそのページを見てないんですが、今のところそこを御案内するしかないという理解で大丈夫ですか。

【岡崎】 そうですね。すみません、私、個別具体的に登録了承のもの自体はまだ見れていないのであれなんですけれども、こちらから申し込んで、国連がレジスターを受け付けて、アクセプトされたという旨のものが来るはずですので、それをもってビザの申請事由としていただく、要は、渡航目的ですね。

【河内】 それがインビテーションレターみたいな形になるということですかね。

【岡崎】 そうですね。

【河内】 ですよ。分かりました。じゃあ、そのように伝えます。ありがとうございます。

【岡崎】 ただ、それがすなわちビザの発給を保証するものではなくて、それを申請事由として各国の日本大使館においてビザの審査が行われるというところがございますので、インビテーションレターの役割を果たすといっても、それがビザの発給を保証するわけではないというところは、もし気にされる方がいたら補足をいただければと思います。

【河内】 分かりました。ありがとうございます。

【加藤】 ほかの方はいかがでしょうか。

【岡崎】 すみません、若干補足すると、インビテーションレターというのは、IGF自体が自由参加型の登録をして参加をするタイプの会合ですので、インビテーションベースで参加するものではないということは前提として、インビテーションレターの代わりという言い方をしているので、そこを少し補足させてください。

【河内】 説明できるか分からないですけども、言っておきます。ありがとうございます。

【岡崎】 申し訳ないです。よろしくお願いします。

【河内】 いえいえ。

【前村】 前村ですけども、IGFに慣れている方は、自分で参加登録をするということで、登録した人にはこんな感じの書類が来ますよみたいなことはいろいろな会議でやっていることだと思うので、恐らくは理解されると思います。

【岡崎】 ありがとうございます。

【加藤】 ほかの方はいかがでしょうか。では、まだほかの質問がある……、浜田様、お願いします。

【浜田】 こんにちは。

【加藤】 こんにちは。

【浜田】 海外からの参加については、今のお話だと思うんですが、日本国内からの参加の場合に、普通にIGFのところから登録をしようとする、パスポートの番号が求められると思うんですが、日本国内からの参加者もパスポートを持っている人しか参加できないということになるのでしょうか。

【岡崎】 いや、それは確認して、そうではなくて、顔写真入りの政府発行の公的な身分証であればよいと確認を取っていて、恐らく向こうのUNの言い方を借りると、UN member countries' government issued photo IDという言い方をしていましたけれども。

【浜田】 そうなんですね。

【岡崎】 はい。ただ、当然運転免許証とか、そういう極めてポピュラーなものだと間違いはないと思うんですけども、こういうのしかないんですけどもというのがもしあれば、個別にお問合せいただくこともあるかなとは思いますが、同じ質問を多々いただいた関係もあって、こちらからもその点は事務局に確認済みです。

【浜田】 ありがとうございます。重ねてお尋ねしたいんですが、私は既に現地参加で申し込んだんですけども、そのときにはパスポート番号が求められたので入れたんですが、例えばオンラインで参加の場合には、顔写真入りの証明書というのは必要になるのでしょうか。

【岡崎】 すみません、そこは分からないんですけども、どういう手続になっているか分からないので、あくまで私の直感的なところで、また別に確認はしますが、顔写真入りの身分証を求めるのはセキュリティーチェックの関係ですので、オンライン参加をする場合に写真つきのIDが要るのかということ、それを何に使うのかということはあるかなと思ってしまいますので、すみません、では、確認させてください。

【浜田】 助かります。

【岡崎】 すみません、先ほどののはあくまで私の個人的な、直観的なお答えですので、オフィシャルのお答えではないということで。

【浜田】 私自身は既に現地参加で申し込んだので、オンライン参加のときの申込みの画面がどうなるのかが自分では確認できなかったものですから、気になってお尋ねいたしました。どうもありがとうございました。

【岡崎】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。山崎さん、お願いします。

【山崎】 山崎です。去年、エチオピアのIGFにオンライン参加だけしたんですけども、たしかそのときもパスポート番号というか、身分証明書の番号を求められたと記憶しています。ただ、個人的な経験を記憶に頼って申し上げているので、岡崎様に確認していただくのが一番確かだとは思っています。

【岡崎】 確認いたします。

【前村】 蛇足なのかもしれないんですけども、前村ですが、オンラインで登録する場合にも、何かパスポートナンバーと書かれていますよね。あそこにパスポートナンバー以外に何か書けるのかというのがよく分からなかったので、我々相談をよく受ける側としても、その辺は、オンラインで参加する方に対してこうすればいいんですよというのは、何か明確なものがお示しできるといいなと思ってしまいますという、ちょっと雑談めいたことですすみません。

【岡崎】 国連のIGFのホームページは、結構正直分かりにくいところがあるので、どこかに載っているのかもしれない分らなければ、そういう質問を受けているのでインストラクションを出してほしいと事務局に伝えておきます。

【前村】 ありがとうございます。恐れ入ります。

【加藤】 山崎さん、また手を挙げられているようですが、お願いします。

【山崎】 非常に基本的な質問になってしまうかもしれないんですけども、国連加盟国の政府発行の写真入り身分証明書ならよいということですが、これは英語で印刷してある必要はないんですよ。日本の場合は、さすがに開催国ということで大丈夫なのかもしれませんが、アルファベットでない文字を使っている国の身分証明書だと、結構確認プロセスが大変なんじゃないかと思ったものですから。

【岡崎】 その点については、英語で書いてなくてもいいのというのは聞いていて、あくまで日本の運転免許証——マイナンバーカードはたしかアルファベットが書いてあったと思うので——そういうのも大丈夫なのか、英語が分からなくてもいいのかというのを聞いたら、それは問題ないとは言われましたが、ホスト国言語じゃない、日本とか英語話者が集まる場所で一般的でない言葉、言語、文字で書かれている場合にどうかというのは、国連のセキュリティーはそういうのに慣れているのかもしれないんですけども、日本語と英語、あと、国連公用語以外のことまでは確認をしていないので、どうでしょう、そちらも何か具体的にこれはどうなんだというのがもしあれば。

ただ、海外からいらっしゃる方は基本パスポートを皆さん持っているはずではあるので、パスポート以外をお使いになるということあまり想定はしてないとは思んですけども、日本国内にいる方も、外国人の方はパスポートを持っていますし、そうじゃなければ日本人なので、日本語で何がしかという気はするんですが、どうしようかな、あしたの夜また国連と打合せがあるので、そういうときどうするのというような乗りで聞いてみます。

【前村】 前村ですけども、今岡崎さんがおっしゃったとおりで、外国から、日本以外から来る方は絶対パスポートを持ってなきゃ来れないということで、それ以外の身分証明書……、でも、そうですね、オンラインで参加するときという話があるのかもしれないんですけどもという話ですよ。オンサイトであればパスポートは持っているということで、日本の方がオンサイトで参加するのに来るときには、恐らくガードマンは日本人なのでとか、そうじゃなくても、これが免許証で、これを出してくると思うよと言ったら、大体正しいものだと思はできると思うので、それ以外のパターンというのが幾つか例外的なものがある以外は、恐らくはほぼカバーされているのかなという感じがするんですけども、皆さんそんな感じで納得できますかねという話なんです。

【山崎】 山崎ですけども、岡崎さんのほうがはるかに詳しいと思いますが、IGF2019でベルリンに行った際に、たしか会場の警備は国連の警察隊がやるので、何か一種の治外法権とか、

現地の法律は対象外とかというのをちらっと伺った記憶がありまして、ですから、日本人のガードマンが警備をするということはないんじゃないかと思いました。

【岡崎】 その国連との細かい契約については、ここでお話ができないので、そこは少なくとも宿主国の言語でのみ書かれた運転免許証などは大丈夫というのは確認しているので、警備がどういう状況なのかお話しはできないんですけども、少なくとも身分証について御懸念いただいたものは確認をしておきますし、少なくとも日本の免許証やマイナンバーカードで入れないということはないようにはしたいと思いますので、それはるる伝えてはいますし、きっちり警備にも伝わるようにしたいと思います。

私、この後の予定で出なければいけないので、ここで失礼させていただいてもよろしいでしょうか。申し訳ございません。

【加藤】 どうもありがとうございました。ほかに岡崎さん以外に総務省からいらっしゃる方はいますか。

【岡崎】 いるのかな。多分いるかな。

【加藤】 今、最後の点で、警備の詳しい内容を伺うというよりも、会場にアクセスするところで、出入りによくIDカードをその場で昔は作っていたんですが、今回、その辺は、少なくとも日本人の方は免許証を見せて、入り口でチェックするとか、そういう形になるということは今意味されたんでしょうか。

【岡崎】 すみません、私、その警備やIDの状況を細かくは把握してなくて、取決めの内容も詳しく把握していないのと、分かっているとお話は警備上できないので。

【加藤】 そうなんですか。

【岡崎】 申し訳ないです。ただ、手続上スムーズになるように調整はしたいと思います。

【加藤】 今年は、会場で新たにそういうIDを作るとことはされないんですか。

【岡崎】 すみません、そこは担当が違うので、細かいプロセスは。

【加藤】 分かりました。

【岡崎】 身分証が使えるかどうかというところは、私、直接話してはいるんですけども、また確認して共有できるようにいたします。

【加藤】 ありがとうございます。

【岡崎】 すみません、じゃあ退出させていただきます。

【加藤】 どうもお忙しいところありがとうございました。もし追加で何かあれば、メールに一言書いていただくとか、お手数ですが、よろしくをお願いします。

【岡崎】 かしこまりました。では、失礼させていただきます。

【加藤】 ありがとうございました。それでは、まだ追加の質問もあったかもしれないですが、もしあれば、今、逆に、このチームのメーリングリストに総務省の方は御存じであればということで、メールで質問して投げただけであればいいのかなと勝手に思っております。お答えできることは、この会議以外の場でもメーリングリストでお答えいただければと思っています。近づいてきたので、いろいろとそうやって気になることもあるかと思しますので、ぜひメーリングリストを御活用いただければと思います。

それでは、次のアジェンダアイテムに移ります。MAGの御報告ということで、河内さん、お願いいたします。

【河内】 聞こえるでしょうか。

【加藤】 聞こえております。

【河内】 MAGですけれども、前回、いつでしたかね、お話ししたかどうか分からないんですけども、ジュネーブで先月会議があったときに、ワークショップの選定をしたんですが、メインセッションが5つしか枠が取れないのに対して、どうしても6つから絞れなくて、その議論を先週だったかな、MAGの有志のメンバーが集まっていろいろ意見をみんなで言って、そのときちょうどたまたまチャングタイが日本に行っていて今いないと言っていて、チャングタイは参加してなくて、一番最近入った女性のセリーヌという事務局の人が皆さんの意見をノートして、それを事務局で引き取って検討しますということで終わっています。その結果、メインセッションをどれにするかを多分事務局で検討するんじゃないかと思っています。

それを受けて、今週の水曜日に、またMAGのメンバーで今度はメインセッションのどのテーマのセッションを誰が、どういうふうに責任を持ってやるか、誰をスピーカーにするかとかいう打合せをしましょうということになっています。なので、そのときには、メインセッションもというか、もう決まっているのかもしれないんですけども、決まることになると思います。

今のところは、MAGとしての動きはそんな感じです。先週の時点で、アンニャは夏休みを取っていると言っていましたが、別のNRIの会議には出ていましたが、順番にみんなで徐々に夏休みとか今のうちに早く取るような形になっているかもしれないんですけども、今のところ、MAGの動きとしてはそんなところですよ。大きなニュースがあまりなくて申し訳ないんですが、そんなところですよ。

以上です。

【加藤】       メインセッションの5つか6つのテーマというのは、8つのサブテーマに沿って大体決まってきた感じなんですね。

【河内】       そうです。2つをくっつけているところとかもあって、ただ、その6つの中にヒューマンライツとジェンダーが入ってなくて、それも絶対入れるべきじゃないかと強く主張している人もいて、一方で、AIは絶対に外せないと言っている人もいっぱいいて、みんながいろいろなことをいっぱい言うので、どうまとめるのかなという感じですけども、事務局が引き取っています。

【加藤】       ありがとうございます。河内さんへの御質問とかございますか。

ワークショップ、それから、先ほど岡崎さんからもオープンフォーラムとかメインセッションの話がありましたが、大体これで全体像が見えてきたという感じなんですかね。NRIの4つというのも大体決まっているということからすると、どの時間に何をやるかというあたりはまだ明確じゃないかもしれないけれども、大体イシューとして出てきたという感じですかね。

【河内】       多分そうだと思います。メインの部屋、一番大きい部屋の時間割も前回のMAGの会議のときに、まだテンタティブですけど出されて、みんなでああだこうだ言っていたので、それはまだ確定じゃなかったのがあれですが、だんだんそれもセッションが確定すればもう決まるんじゃないかと思います。

【加藤】       分かりました。山崎さん、お願いします。

【山崎】       先ほど出たかもしれませんが、ワークショップ以外のオープンフォーラムですとかDay 0セッションですとか、少しずつ決まった方には事務局からお知らせが行っているということですけども、全部選ばれたセッションが発表されるのはいつか御存じですか。

【河内】       すみません、分かりません。

【山崎】       それは総務省国際戦略局の方にお尋ねしたほうがよさそうですかね。

【河内】　　そうですね。ただ、総務省の方も、国連というかIGFの事務局とやり取りした上でなのかもしれないので、その辺は分からないんですけど。

【山崎】　　分かりました。ありがとうございます。

【河内】　　すみません。

【前村】　　山崎さん、あとは、いろいろこれは決まった、あれは決まったというのがこちらはすごく気になるので、聞きたくなっちゃうのは分かるんですけども、実際に早く分からなければいけない需要はどういう理由なんですか。

【山崎】　　いや、私自身は特にないんですけども、ひょっとしたら参加者というか、このメンバーの方で知りたい方もいらっしゃるかなというぐらいで、共有のために。

【前村】　　分かりました。そのポイントが知りたかったところなので、ありがとうございます。

【加藤】　　オープンフォーラムは、興味があるのが出てくるのかどうかというのは結構知りたいですね。あと、メインセッションはあまり発言のチャンスはないかもしれないけれども、何がメインに議論されるのかという。

【前村】　　そうですね。

【加藤】　　重みづけみたいな意味ですね。今年の重みづけというので、そういう意味じゃあ、全体の傾向を決めるようなところがあるので、MAGが力を入れるところをみんなが引っ張り合いしているのかなということを想像しますけれども、皆さんいかがですか。河内さんへの御質問はございますか。もし、後であれば、河内さんはまだいらっしゃいますよね。

【河内】　　います。

【加藤】　　次、また引き続きお願いするということで、それじゃあ、次の項目に移りたいと思います。日本IGFタスクフォースからの報告ということで、これは前村さんをお願いしてよろしいですかね。

【前村】　　そうですね。前村です。先日から同じようなことを言っているという印象になるかもしれないんですけども、会員への働きかけというのをやらなきゃいけないという段階になっています。

それで、去年の冬ぐらいに思っていたのは、春ぐらいには会員を集めてみたいなことと考えていたところが、4月いっぱい、5月ぐらいまでセッションのプロポーザルを出すように頑張ろうとかいってやっていたりとか言っていると、いつの間にかこの時期になってしまい、であれば、タスクフォースに御参集いただくのは、どういった価値から考えるんだろうということをいま一度明確にするみたいなこともタスクフォース運営委員会で集まったときにもやりまして、それをもって働きかけを今週にでも始められるようにという感じで作っているところです。もうすぐ、今か今かという感じで、会員の働きかけを始める段になろうとしていますのでということが今の状況の御報告になるんじゃないかなと思います。

加藤さん、それ以外にタスクフォースのほうからは何かお気づきはありますか。

【加藤】 いや、今の状況はそのとおりだと思いますが、私の理解で、タスクフォースの側も、この秋に京都会議があった以降、タスクフォースをどう継続するかということも検討するよということが、内部で議論が少し始まっているということで、この辺の動きもタスクフォースの中で話が出れば、さらに、活発化チームとの関係もありますし、適時御報告とか意見をいただくための連絡はさせていただきたいと思っています。

現時点では、京都会議以降もこの盛り上がりをぜひ継続すべきだという雰囲気はありますが、具体的にどうするかというところまでは決まっていなくて、今回のタスクフォースの入会働きかけの中も、そういう議論も今後起こりますということを軽く触れるようなイメージになっていると私は理解しています。

【前村】 加藤さん、ありがとうございます。非常に重要な補足であって、タスクフォースが、IGF2023が終わった後にどうなっていくかというあたりは、活発化チームの皆さんとも意識を合わせながらつくっていくということになりますので、そこに関しては皆さんにも御協力をお願いするタイミングが刻々と近づいているということだと思います。

【加藤】 タスクフォースの動きに関して、御質問いかがでしょうか。

さらに今の働きかけも含めて、明日朝もう一度検討会をやるということになっています。また大きな動きがあれば、活発化チームにも情報共有させていただきたいと思っています。

皆さん、前村さんへの御質問はそれでよろしいでしょうか。

じゃあ、もしなければ、次、国連の側でNRIに関する検討が進められていますけれども、7月27日の件、ここに書いていただいた山崎さんに伺ってよろしいですか。まず、何があったということだけですけれども。

【山崎】 私から報告します。

【加藤】 お願いします。私も、河内さんもたしか出られたように記憶していますけれども、ありがとうございます。これですね。

【山崎】 8月1日というのはメモの日付で、開催自体は7月。

【加藤】 27日ですね。

【山崎】 その際に、主な議題はNRIのメインセッションの話でした。おさらいでNRIのセッションがどうなっているかといいますと、NRIメインセッションというのがあります。これとは別にNRIコーディネーション・セッションというのがあります。それらとも別に、コラボラティブ・セッションがありまして、この中で個別のトピック、AI等新興の技術、それと、サイバーセキュリティ、デジタルインクルージョンの3つがあつて、ですから、計5つセッションがあります。今、話そうとしていたのはメインセッションの話です。

【加藤】 時間的に、これも90分ずつですよ。

【山崎】 はい。90分ずつです。タイトルが決まると、メインテーマを含めたキャッチーなテーマになったということですね。

ポリシー・クエスチョンについては、その中で、この比喩が適切じゃないんじゃないかという意見があつて、削ることにどうやらなりそうです。

あとは、フォーマットとして、実際のセッションの前に各地域で何か議論をする動きになるかもしれませんということですね。

モデレーターについて、オンラインと会場と少なくとも2名、合計2名モデレーターがいるんですけども、それを2名ずつにしようかとかいろいろな意見が出ました。ここはまだ議論中だったと思います。

もう一つの議題は、NRIのコーディネーション・セッションについてなんですけれども、まだはっきり議題についてというところまでこの会議では決まっていなかったと思います。最後の二、三分でこの話が出たというところですので、WSIS20周年の更新プロセスにおけるNRIの役割と、グローバル・デジタル・コンパクトの文脈におけるNRIの将来、この辺が中心となるという可能性ということですね。

私からは以上ですけれども、加藤さん、河内さん、補足があればぜひお願いします。

【加藤】 ありがとうございます。最初のほうのNRIの全体セッションについては、NRIですからいろいろな地域の人になるべく参加できるということ、それから、男女含めてなるべくダイバーシティが確保できることということが非常に強かったのも、それぞれ違った立場からこのテーマについて思っていることを順に羅列するセッションになるのかなというのが私の印象です。

それから、最後のほうのコーディネーション・セッションは、今後NRIをどうするかというので、もともとそういう意見交換みたいなことをやるNRIの時間というのが昔よくあって、何となくbirds of a featherみたいな感じでみんながいろいろ言うような議論があったんですが、私は、その延長になっちゃうのかなと思っていますけれども、山崎さん、どうですか。あまりそこでみんなにプレゼンテーションをするというんじゃなくて、NRIでいろいろふだんから悩んでいることや思っていることをいろいろ議論しながら、今後どうしていこうかというようなセッションになるのかなと思っていますけれども。

【山崎】 私も全く同じかなと思っています、たしか過去ベルリンへ行ったときは、イタリアIGFがIGFの組織化というか法人化の苦勞を語っていらっしゃったような覚えがあり、あまりプレゼン中心にしてもしょうがないんじゃないかなという気はします。

【加藤】 そうですね。だから、日本のNRIはこうなっていると、そういうことを各国に知ってもらったり、実は、今まであまり日本から日本の中でのIGF活動というのを報告する機会がなかったので、ここに行って、今年はこんなことやっているというのは大分ビジビリティーが上がってきていると思うので、皆さん、これに参加していただいて、日本もやっているよというのを言っていただくいい機会かなと思います。そうすることによって、いろいろな地域のNRIとかIGFなんかにも発言する場とかができて、ネットワークもつくれるんじゃないかなと思います。

すみません、僕からはそれで、河内さんのお名前が出ていたので、もしあれば。

【河内】 いえ、私からは特にはないです。山崎さんにちゃんと御報告いただいたので、それで大丈夫だと思います。

【加藤】 いつもありがとうございます。本当に。

【河内】 ありがとうございます。

【加藤】 ということで、NRIに関して何か御質問とかございますでしょうか。

もし特になければ、次の今年の9月に予定している国内でのIGFの活動の準備に関して、これもちょうど働きかけのレターをドラフトしていただいたこともあって、まずは今の状況を山崎さんに御報告いただいてもよろしいでしょうかね。

【山崎】 では、山崎から報告します。8番、IGF2023国内事前会合に関する報告ということで、準備グループというかプログラム委員会というかの進捗状況ですけれども、先日、IGF事務局のほうからワークショップの選定結果が公表されましたので、それを全部見てみて、日本から、日本の方がコーディネーターとして入っていらっしゃるセッションを特定しまして、合計9あるんですけれども、この9つのセッションのオーガナイザーに連絡すべく文面を準備しているところです。もう大体見ていただいたので、ほかになければ、今日か明日にでも出せそうかなというところで、今、連絡先を必死で探しているところです。大体見つかりました。1人だけ連絡先が分からなくて、所属組織の公式アドレスに聞いてみて、伝わるのを祈るしかないかなという感じです。

全部公開されている情報なので、お見せしますと、大体こんな感じになっております。サステナビリティ、環境ということで、グリーンデジタルフューチャーということですね。漫画、海賊版関係のセッションで、ロボット共存カフェでしたっけ、と、ビデオオンデマンドの規制という感じで、全部で9つセッションが日本から提案されております。日本人だけのパネリストのセッションもありますけれども、多くはそうではないので、全部の登壇者を事前会合でそろえるのは難しいかもしれないということで、そこは各セッションのコーディネーターに任せるということで打診する予定です。

ですから、セッションによっては登壇可能な人に出ていただいたり、セッションによっては時差はあっても海外の人が参加して英語で議論するセッションになるかもしれないし、その辺はセッション次第という感じで打診をしようということでプログラム委員会では合意されたと理解しておりますが、もしその辺違っていましたら、ここにいらっしゃる、ここに参加していらっしゃるプログラム委員の方、訂正をお願いします。

そんなところですけども、補足とかあれば、加藤さん、あと、河内さん。

【加藤】 前村さんもいらっしゃいますね。

【山崎】 前村さん、高松さん、補足等あればお願いします。

【加藤】 いかがでしょうか。補足、御質問、いろいろお願いいたします。

【岸上】 W3Cの岸上ですけども。

【加藤】 よろしくお願ひします。

【岸上】 こんにちは。この情報というのは、どこかのサイトで取れるんでしょうか。

【山崎】 まだ取れないですけども、今日のアジェンダのところにリンクするようにします。

【岸上】 そうですか。ありがとうございます。

【山崎】 ですから、メーリングリストに入っていらっしゃる方は見えるようにします。

【岸上】 分かりました。ありがとうございます。後からチェックします。

【前村】 岸上さん、今おっしゃったのは、日本がオーガナイザーになっているワークショップのリストということですか。

【岸上】 そうです。

【前村】 今見ているこれがそういうことなんですけど。

【岸上】 ええ。特にこの217番の中身を知りたいなど。いろいろなことを言われると、ビビってしまうので。

【前村】 217番の内容ということなのであれば、プロポーザルそのものの内容はさらされていますので、全ワークショップ見ることができます。

【岸上】 分かりました。すみません。ありがとうございます。

あと、すごいつまらないことを今頃聞いても怒られそうですけれども、レジストレーションをしたつもりなんですけど、何も言ってくれないんですけれども、そういうものなんですかね。

【前村】 僕が言いますね。レジストレーションをすると、まずはACKが返ってきて、しばらく待ってねと言われて、しばらく待っていれば、何も言われずに、見に行ったら登録が終わっていたみたいな感じです。私は。

【岸上】 そうなんですか。登録が終わったというのは来ないんですね。

【前村】 来ないですね。

【岸上】 分かりました。ひたすらじっと待っていたら駄目なんですね。

【前村】 我々の感覚だと、じっと待っていても来そうな感じがしたんですけどね。

【岸上】 分かりました。ありがとうございます。

【山崎】 私の場合は、登録がアクセプトされましたというメールが国連事務局から来ましたけれども。

【前村】 そうですか。それじゃあ来るのかな。僕が見てないだけ。

【河内】 私も来ましたね。河内ですけど。

【前村】 じゃあ、そっちのほうが正しそうですね。

【河内】 迷惑メールのフォルダに入っちゃっているとか、そういうことがあり得るかもしれないですね。

【前村】 なるほど。

【河内】 そこを確認していただいたらいいかもしれないです。

【前村】 すみません。誤情報を申し訳ありません。

【河内】 Indicoという国連の登録システムから来ると思います。ノーリプライみたいなやつで。

【前村】 いつの間にかそこでレジストしていますもんね。Indicoというんだと思うんですけど。

【加藤】 ありがとうございます。ほかはいかがでしょうか。

山崎さん、先ほどの9件選んでいただいたのは、10件というお話もあるんですが、後で内部で何か1つ発見したということはありませんでしたか。

【山崎】 プログラム委員会で加藤さんがおっしゃっていましたよね。すみません、確認します。

【加藤】 そうですね。それが1つと、それから、繰り返しになって恐縮なんですけれども、今度の9月の6、7、8日の候補日を前提に、どの時間ならいいという都合を伺いながら、9件か10件のオーガナイザーの方にぜひ今度日本IGFという形でやりたいので参加いただきたいということをお願いする今は段階だということで、本番は皆さん英語でやられるんでしょうけれども、今回は日本語ベースでやってもらえばやってもらいたいけれども、英語でやっていただくのももちろん

結構、ただし、通訳はつけませんという前提なんですね。したがって、日本の方が主なオーディエンスということを考えると、最初に英語でやる方も含めて日本語でサマライズするとか、そういう形式もあるんじゃないでしょうかということもメンションはしています。ただ、英語のままでも全く問題ないという言い方はしています。これは参加される方にお任せしています。

それから、過去と同じようにハイブリッドでやるので、海外で英語でやる方も、時差をいとわなければ参加していただけるという前提で、本番さながらにやりたいということであれば、そういうふうに9月の日本IGFもいよいよ国際的なIGFという感じでやることも可能ですというふうに今働きかけをしようとしているというイメージですね。

山崎さん、大体そういう理解だったと思いますが、よろしいですね。

【山崎】 大丈夫です。すみません、補足いただいて。

【加藤】 ということで、本番さながらをぜひと期待するということになると、そういうふうによりたいという方も出てくるとしたら、今年の日本IGFは少し面白くなるかもしれないですということで、そろそろこういうイベントがあるということも、皆さん、ここにいらっしゃる方々も含めて、いろいろなところで知らしめていただければいいのかなと思います。

あと何か、前村さんや河内さん、高松さん、付け加えていただくことはありますか。

【前村】 私のほうからはないんですけども、ワークショップの9件に対して10というときには、私、Day 0で通しているセッションがあるので、それも含めて日本人は10以上みたいな言い方をすることがありますという。

【加藤】 そういうことですね。

【前村】 これがそういうことかと思っていただけるのかどうか分からないんですけども、補足です。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

【高松】 高松です。私からも特に補足することはないです。ただ、先ほど岸上さんに、チャットのほうに、私のほうに届いていた国連のほうからの参加承認メールの件名のほうを貼り付けていますので、もしよろしければ、参考にさせていただけたらと思います。

以上です。すみません、別の話で。

【岸上】       ありがとうございます。

【加藤】       あと、御質問等ございますか。秋の会合は10月の助走であると同時に、さらに盛り上げるための重要なイベントだと思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

もしなければ、今日考へていたアジェンダは以上なんですけれども、何かほかに案件、御相談いただくとか御報告いただくことはありますでしょうか。

今日の議論を受けたTodoというというのが次に書いてありますけれども、一番大きなのは、今、最後に申し上げた国内事前会合に向けて、プログラム担当の今6人名前を出していただいているんですけれども、6人のほうで準備をして、至急9件のオーガナイザーの方にお声がけをして、秋の日程を決めて、内容を詰めていくという作業が一番大きなTodoかなと思ひます。

今、田中さんから、サイドイベントに関する情報はありますかということですが、そうですね、この貴重なタイミングですし、先ほど岡崎さんから、Day 0とDay 1に政府の主催のイベントがあるということで、恐らくその2日を避けた形でサイドイベントを企画されている方がいらっしゃると思ひますけれども、何かこんなことを今考へているというサイドイベント情報で、アップデートいただくこととか、さらには、勧誘いただくことも含めて何かありますでしょうか。

もしよろしければ、田中さんのほうから、まず、現状というか、お考へのことを教えていただけるとありがたいんですが、いかがですか。

【田中】       ありがとうございます。School of Internet Governanceの事務局を設置している京都情報大学院大学の田中と申します。

まだドキュメントとして告知できる形になっていないんですけれども、Day 1の10月7日に若者やインターネットガバナンスを潜在的に教えるような関係者の方をターゲットにしたイベントというのを開催予定でございます。先ほど国連の方とも確認をしまして、できれば事務局長の御挨拶もしていただければという予定なんですけれども、我々の開催意図としましては、日本にユースに相当する組織体系というのがないのかな、これからなのかなと思うところで、なるべくユースへのアウトリーチ、キャパシティービルディングになればという意図で企画しております。

そのような企画でありながらも、既に若者がいっぱい集まっているわけではございませんで、皆さんのところからも、そういった対象になる方がいらっしゃるようでしたら、例えば本体のイベント、IGFのイベントのほうに参加予定なんだけれども、その事前予習というか、少しその前に交流したいよという方にお越しいただければと思ひます。

それから、最後に、ごめんなさい、飛んでしまったので、後でコメントで書き残しておきます。

【加藤】 ありがとうございます。10月7日に素晴らしい企画を御検討のようですが、場所とか、それから、これはリモートでも参加できるのでしょうか。

【田中】 ハイブリッド開催で、京都、恐らく京都情報大学院大学の駅前のキャンパスになるかなという予定でございます。

【加藤】 京都駅前です。もしそういう情報が分かったら、ぜひこのメーリングリストも利用していただいて、いろいろな方に声をかけていただければと思います。ありがとうございます。

立石さんからも手を挙げていただいています、お願いします。

【立石】 今の補足をさせていただくと、SIGというのはなかったもので、一応勝手にというと怒られますけれども、ジャパンという形で、今、チャットのほうに貼り付けたところで、たまたま京都情報大学院大学の60周年ということもあって、その記念も含めて、今年で終わりじゃなくて来年以降も続けるんですが、こういう形でやろうということで今動いています。

それに関して、去年のエチオピアでSIGの人たちと話をしたときに、90分しかなくて、みんなが一斉に集まるのもったいないということだったので、今回場所を提供してやろう、それから、実際に日本の高校生とか大学生の人たちにできるだけ、あまり敷居高くなく、こちらのほうは前日のイベントなので、さっきもレジストの件でいろいろありましたけれども、なくても入れるということで今動いている状況なので、ぜひとも学生、特に高校生、大学生の方にリーチのある方は宣伝していただけたらありがたいなと思います。

それと、もう一個、サイドイベントのことで言うと、先ほど岡崎さんのほうからありましたけれども、Day 0か1かみたいな話もあったので、全然細かく決められてはいないんですけども、一応冠はJAIPAということで、できれば協賛いただけたらいろいろな団体の方も協賛いただいて、サイドイベントということで、主にネットワーキングパーティーという形で懇親会、その前にそれぞれの団体の紹介だったりとか、それから、あまり懇親会の前に2時間もやるのはあれなので、せいぜい1時間ぐらいだと思っんですが、百万遍にある大学院の校舎を使うとか、あるいは駅前、これも場所はこれからなんですが、夜、Day 3、Day 4、Day 5のあたりで1回か2回、会場じゃないところで御飯を食べながら話ができる場を設けたいなと思っています。

これも決まり次第また御連絡しようと思いますが、何せ不確定情報が多過ぎて決め切れてはいないんですけども、あとプラス、それにもし御協力いただける方がいらっしゃるようであれば、

あるいは興味があると、あるいはこうしろという御意見等もありましたら、それも含めて我々のほうに、あるいは私でも結構ですので、御連絡いただけたらなと思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。田中さんのプランですけれども、ユースのコアリションと連携するということですが、7日のイベントは、そういう意味では海外からの人も入れてやるという企画なんですね。

【田中】 そうです。

【加藤】 そういうことですね。

【田中】 連携しているのはSIGのグローバルコアリションでして、どちらかというともユースではなくて面倒を見ている側の大人の方です。

【加藤】 そうですね。ごめんなさい。じゃあ、そういう方を通じて海外にも声がかかるということですね。海外に声をかけるところをどう工夫されるのかなと思ったんですけども、ネットワークができる。現場では、ニーズ的な問題点はあるんですか。

【田中】 会場は、広く使えるところを多分御用意できるかなと思うんですね。おかげでこのような形で、コアリションのメンバーとのコミュニケーションが取れているので、海外の方へのお声かけはできているんですけども、日本の方に対するパイプが存在していないので、できればその面で御協力をお願いできましたら大変ありがたく存じます。無料のイベントです。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。ぜひ少なくとも活発化チームのメーリングリストや、それに関連した場が幾つかあると思いますので、そういうところを利用いただければと思います。

あと、ございますでしょうか。サイドイベントについては少しずつ見えてきたので、ほかにこんなことを考えているよというようなものがあればお願いしたいと思いますが、今日は特にないのですか。

これ以外のアジェンダアイテムとして、何か御披露いただくことはありますでしょうか。

【田中】 すみません、手を挙げるボタンがうまく押せなくて。

【加藤】 いいです。田中さん、もう一度お願いします。

【田中】 先ほどのJAIPAの立石様からDay 3、Day 4でサイドイベント交流会を検討中ですということがございましたけれども、それと関連するような、連動するような形で、JAIPAさんのほうで取りまとめを多分されるんだと思うんですけれども、日本でインターネットガバナンスに係る活動を行っている団体様の御紹介をするようなパンフレットを英語で作成して、会場等で配布できればということを考えておまして、多分立石様のほうからお声がけして、こういう様子で情報くださいみたいなことをお願いすることが8月中に発生するイメージで今のところいるんですけれども、ぜひ載りたいよとか、ぜひ紹介してくれとか、こういうところを紹介したらいいんじゃないかという情報もいただけるとありがたいのかなと思います。

立石様、何か補足いただけますでしょうか。

【立石】 すみません。すっかり忘れておりました。ありがとうございます。

一応パンフレットというかプログラムは国連の本体のほうから発表されますし、多分ぎりぎりまでいろいろ変わるので、こちらでやるのも意味がないなと思うので、とは別に、今回も多分ワークショップを提案された方々は皆さん困ったなというのは、海外のこの分野で誰に聞けばいいのかという話があると思うんですね。

京都は今回で終わるんですが、日本はこれで終わり、今年だけですけれども、来年以降、海外の方でこのことは今日本でどうなっているのということを誰に聞けばいいんだというのは、多分そのアウトリーチがない方のほうが多いのかなと思いますので、それだけには限らないんですけれども、日本の団体が、実はJAIPAだったらこんなことやっていますとか、安心協だったらこんなことやっていますみたいな一覧を英語で、日本語も一緒に入れたほうがいいのかと思うので、そこは迷ってはいるんですが、少なくとも英語で御紹介するようなパンフレットと、それまでには一応サイドイベントの企画は決まっていると思いますので、そういうのを入れたパンフレットとかを作って、一応IGFビレッジのほうにJAIPAは出す予定ですし、ほかのところも幾つか出すというお話を聞いていますので、そういうところで配るようなリーフレットを作ろうかなと考えています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。全く別件でも結構ですが、ほかに御質問とか御発言はありますでしょうか。

それでは、もしなければ、ちょうど1時間になるころですが、今日はここまでにしたいと思います。次回は、9月の日本IGFの会議の準備が定かになるので、あと2週間後なんですけれども、8

月21日の月曜日にやると前回決まっております、その方向で計画させていただければと思っております。

もう一回繰り返しになりますが、何か付け加える点、思い出した件は特にございませんか。

それじゃあ、ないようですので、ちょうど1時間、今日もうまく進めていただいて大変ありがとうございました。引き続き、特に秋のイベントについて、皆さん、よろしくお願ひしたいと思います。今日はありがとうございました。失礼します。